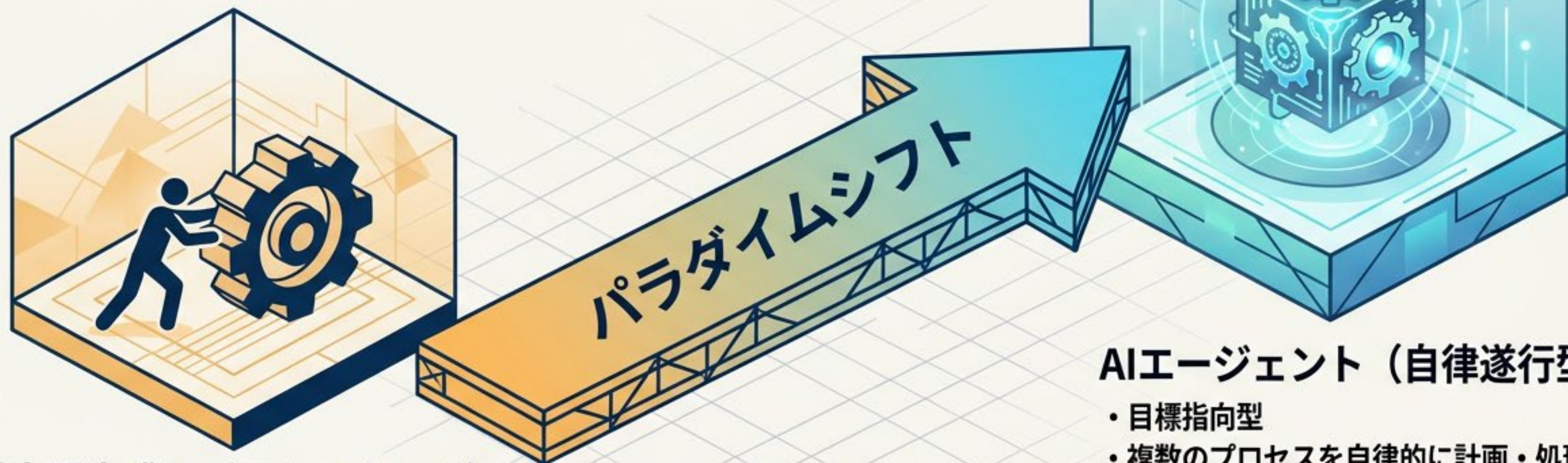


対象読者：知財部門責任者 / R&Dマネージャー / 経営層

専門調査レポート：特許AIツールの進化 と特化型AIエージェントの比較分析

次世代知財戦略の青写真

知財AIの進化：作業支援（アシスタント）から 自律遂行（エージェント）への移行



従来型生成AI（アシスタント）

- プロンプト・レスポンス型
- 単一タスクの効率化
- 人間の継続的な介入（プロンプト・チェーニング）が不可欠

AIエージェント（自律遂行型）

- 目標指向型
- 複数のプロセスを自律的に計画・処理
- 人間の介在なしで最終アウトプットまで到達

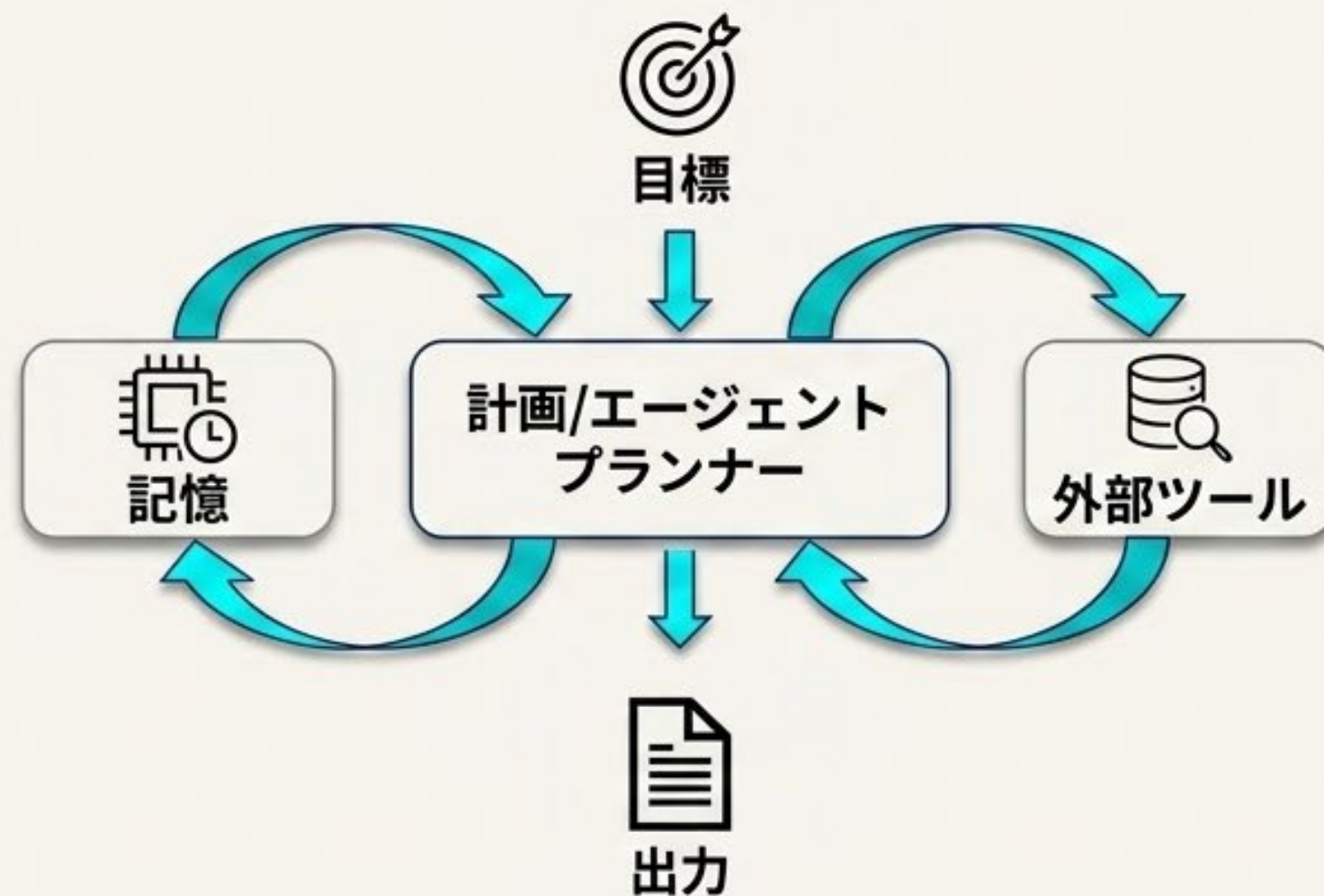
単なる「権利保護の手段」から「経営戦略の武器」へ知財活動を昇華させるトリガーとなる。

アーキテクチャの根本的差異：線形処理 vs. 自律ループ

従来型生成AI：ユーザーの指示を待つ受動的システム



AIエージェント：目標に向けて自ら行動を計画する能動的システム



エージェントは単一の回答を返すのではなく、計画・記憶・ツールへのアクセスを自律的に繰り返し、タスクを完遂する。

エージェントを駆動する4つのコア要素

記憶 (Memory)

セッション内で過去のアクションや抽出情報を保持し、長期的な文脈を維持。

ツール (Tools)

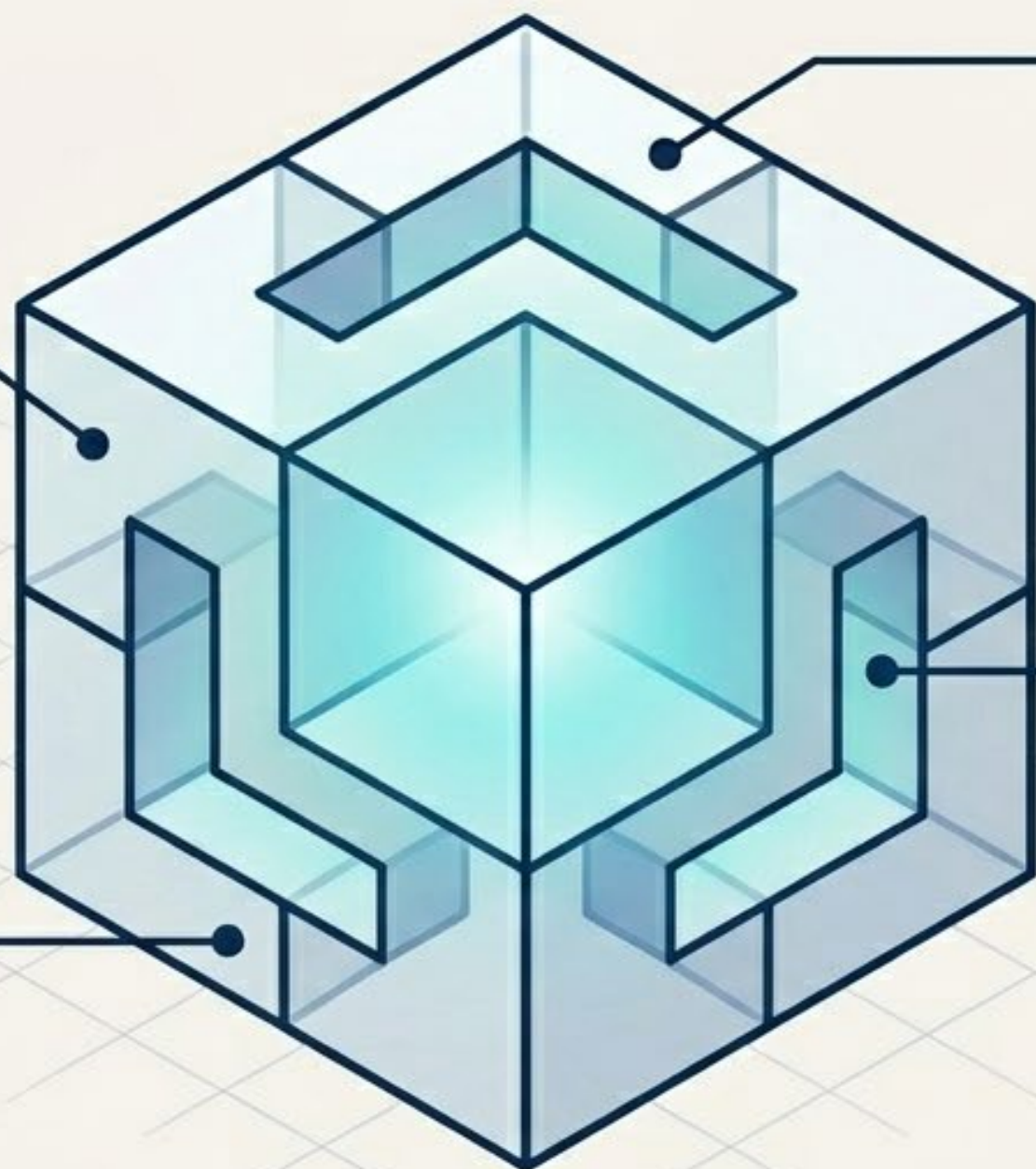
特許データベース、科学論文、解析APIなどを必要に応じて自律的に呼び出し実行。

目標 (Goals)

単発の指示ではなく、「競合技術を調査し、自社との差異をレポート化する」といった最終到達点。

計画 (Planning)

自律性の中核。目標達成に必要なステップを分解し、推論の順序を決定 (思考の連鎖: Chain-of-Thought)。



インサイト：ジュニア・アナリストへの業務委譲と同義のパラダイムシフト

【Agent 1】 Patsnap Hiro : グローバルR&D向け・エンドツーエンド推論

コア技術: PharmaGPT / RAG+RAT

対象: グローバルR&D・知財戦略部門

強み: 幻覚排除とイノベーション支援

1. 幻覚の排除

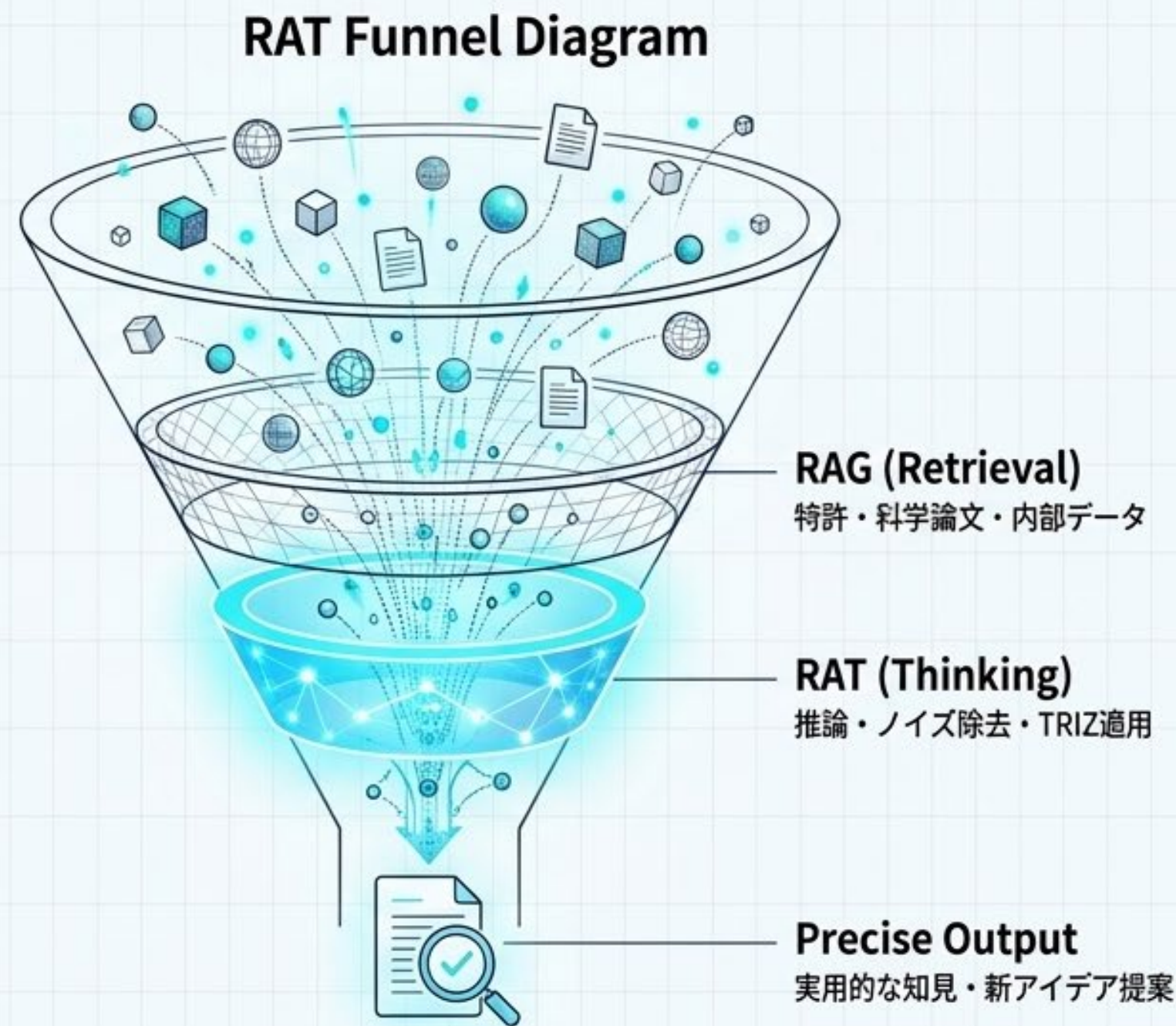
汎用LLMに依存せず、20億以上の独自構造化データとカスタムLLMで高信頼性を担保。

2. RAG + RATの統合

「検索 (RAG)」に「深い解釈・ノイズ除去 (Thinking)」を加えることで、分析の深さと検索精度を両立。

3. TRIZ・第一原理思考

発明的問題解決理論を組み込み、研究者の新たなアイデア生成を支援。透明性の高いガードレール機能も実装。



【Agent 2】Tokkyo.Ai：現場の暗黙知を形式知へ変換する特許特化エージェント

コア技術: Deep Search / 自律的ドラフト生成

対象: R&D現場・出願業務担当

強み: 生データからの意味ベース発明抽出

1. Deep Search

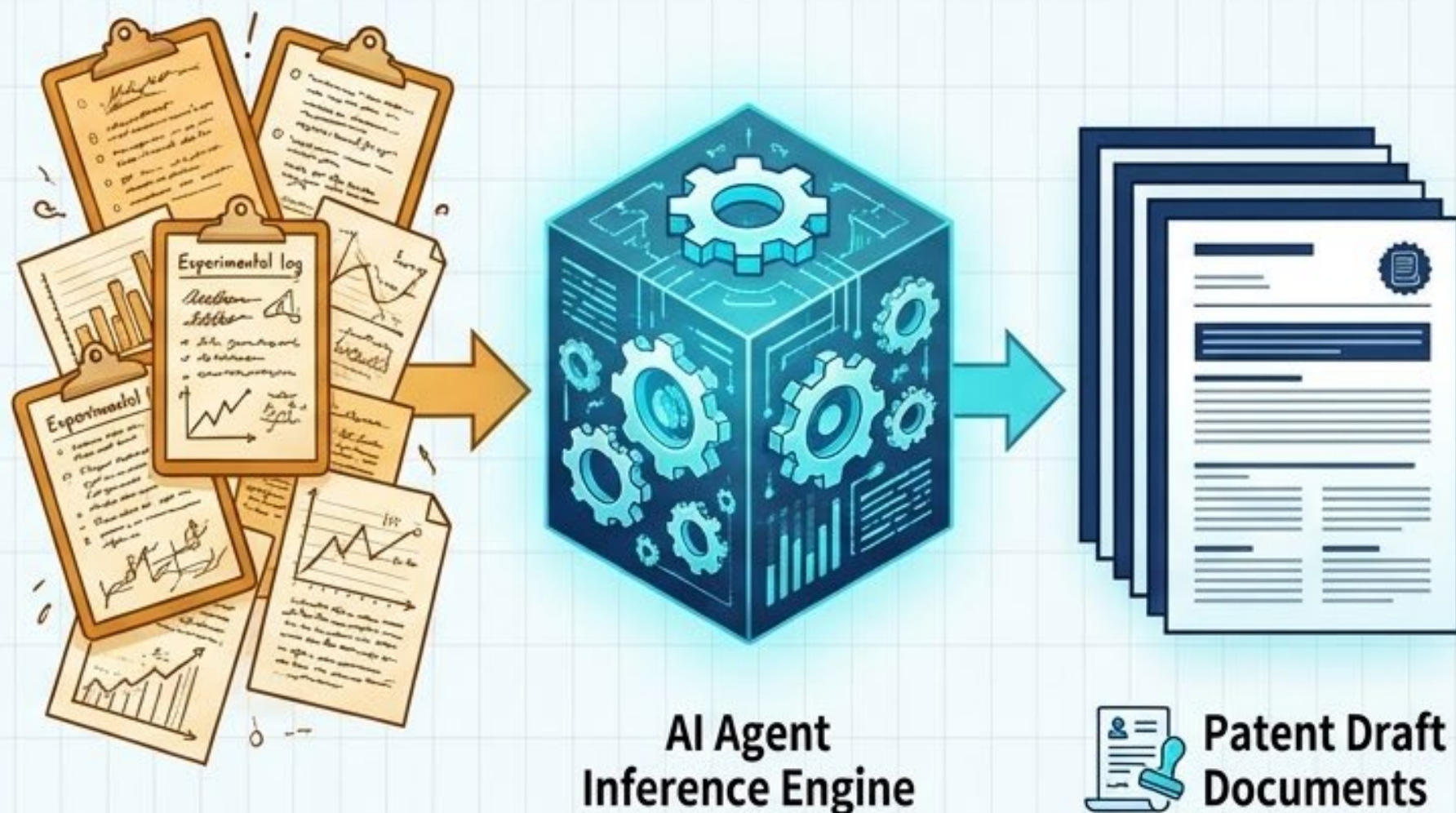
キーワード検索ではなく、自然言語の研究メモから技術的文脈を深く理解する意味ベース探索。

2. 発明の自動抽出

【実践例】再生PET(rPET)とPLAの配合条件など、現場の生データから因果関係を特定し、特許化の可能性が高い「発明」を自律抽出。

3. 自律的ドラフト生成と安全網

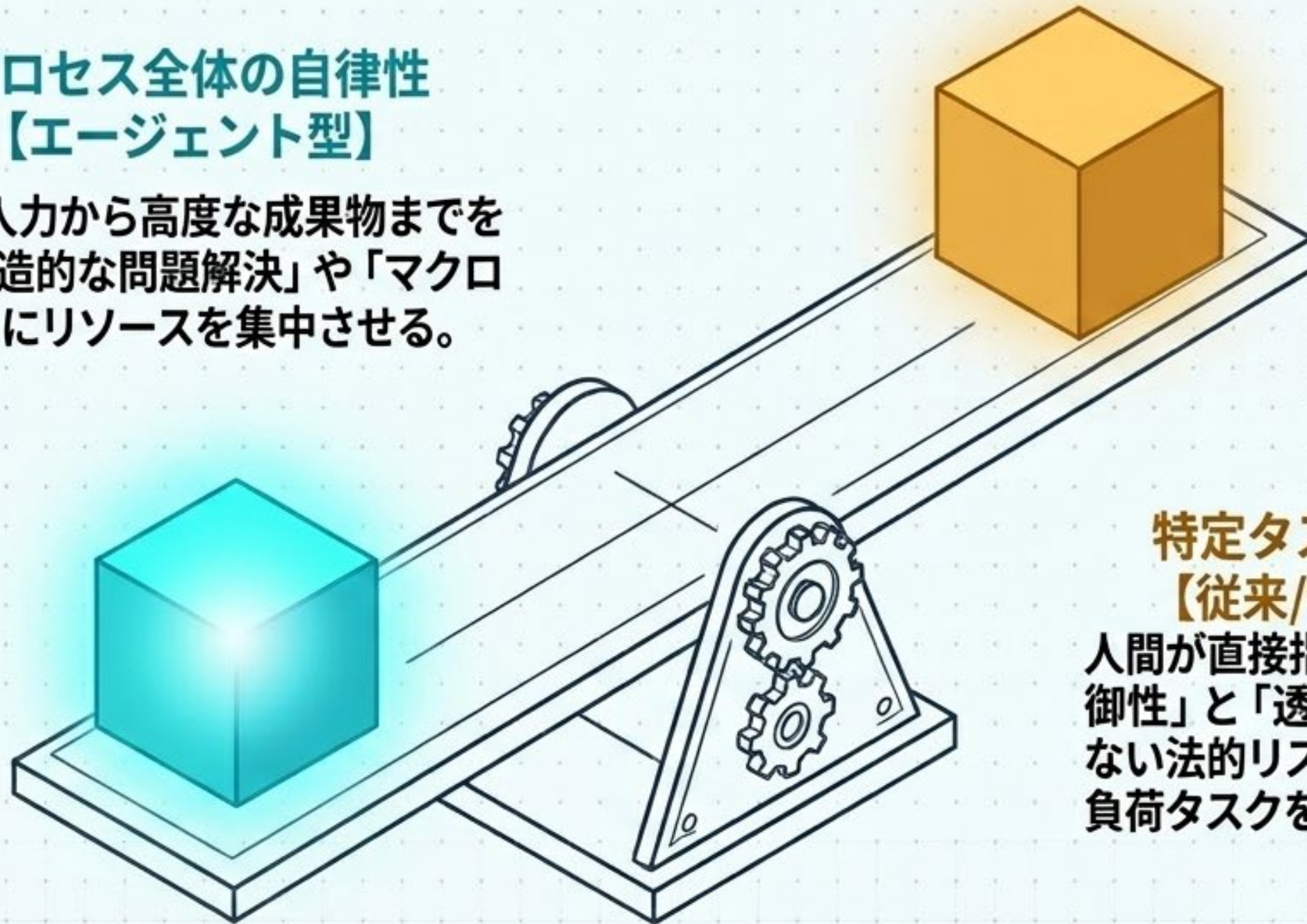
出願関連業務の時間を90%以上短縮。完全なプライベート環境で最高機密データの漏洩を防止。



「自律性」か「制御性」か：タスク性質に応じたアプローチの分岐

プロセス全体の自律性 【エージェント型】

抽象的な初期入力から高度な成果物までを自律実行。「創造的な問題解決」や「マクロな戦略策定」にリソースを集中させる。



特定タスクの極限制御 【従来/特化型生成AI】

人間が直接指示・確認を行う「制御性」と「透明性」。ミスの許されない法的リスク確認など、特定の高負荷タスクを極限まで効率化。

結論：エージェントは「ワークフロー全体の指揮」、特化型ツールは「特定工程の圧倒的効率化」を担う。

【Task Tool 1】 Genzo AI：社内実践で鍛え上げられた知財業務のSaaS化

コア技術: SaaS型自動化プラットフォーム

対象: 大企業の知財部

強み: 実証済みの圧倒的なコスト削減効果

1. 実証されたROI

島津製作所社内での実践により、外部特許事務所への委託費を年間8,000万円削減するという劇的な効果を証明。



2. 暗黙知のシステム化

ベテラン知財部員のノウハウを言語化し、社内研究データから出願候補を自動提案。

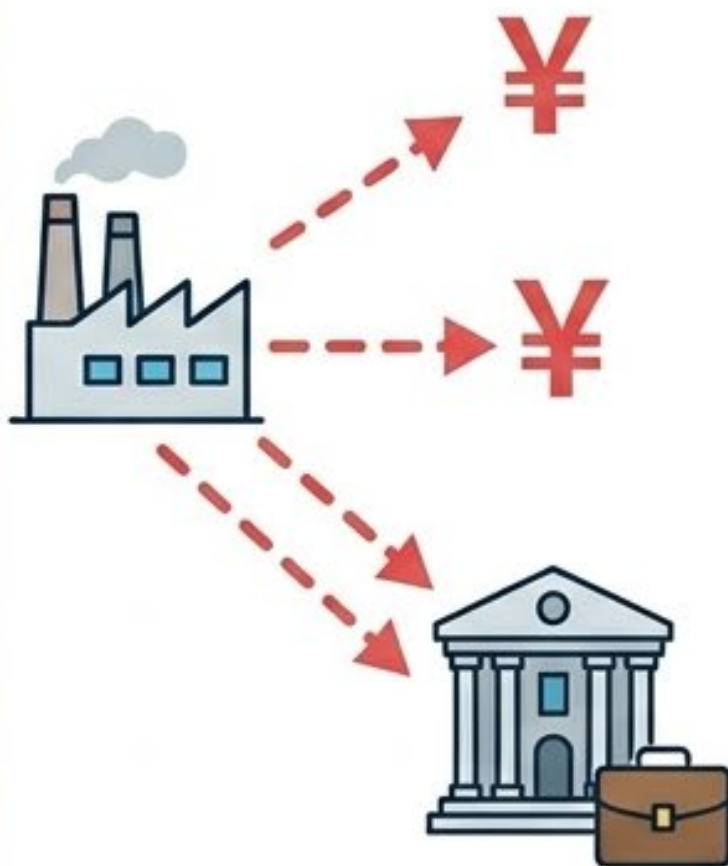


3. 堅牢なセキュリティ

読み込ませたデータは一定期間後に自動削除。エンタープライズの厳格な要件をクリア。



過去: 高額な外部委託費の流出



現在: Genzo AIによる社内自動化ループ



【Task Tool 2】 Summaria：侵害予防調査のノイズを劇的に排除するスクリーニング・ファネル

コア技術: OpenAI GPT連携の一括処理

対象: 特許実務者・調査担当者

強み: 請求項と製品仕様との精密対比

1. 高度な文脈解釈

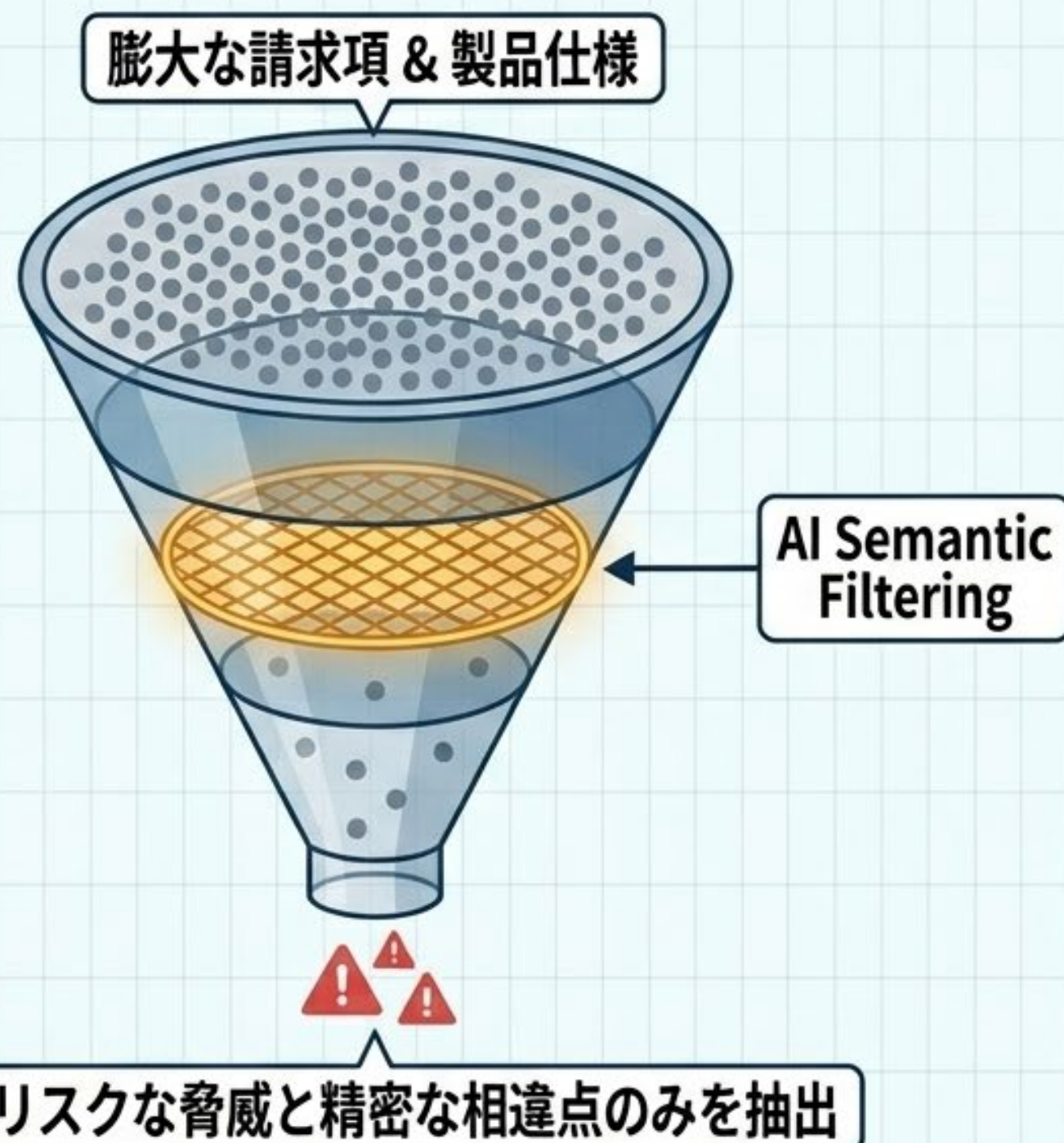
難解な特許の「請求項」を明細書全体の文脈が平易に解説し、適切な分類と理由を自動付与。

2. 圧倒的なFTOスクリーニング

独立・従属請求項を一括検討。自社製品仕様と対象特許の構成要素を比較し、「関連度」「理由」「相違点」を表形式で出力。

3. ノイズ特許の即時排除

人間が行わずに精読していた膨大な時間と労力を削減し、初期段階で確信を持ってノイズを除外。



【Task Tool 3】 AI Samurai ONE：審査官の思考ロジックを再現する特許申請支援

⚙️ コア技術: 審査官ロジック / IDEA BOX | 🏢 対象: 出願業務を頻繁に行う知財部・中小企業 | 🏆 強み: 特許性のA-D客観的ランク付け

🔍 1. A～Dランク付け判定

実際の特許庁審査官の論理プロセスをアルゴリズム化。発明の新規性・進歩性を客観的に評価し、出願可否の一次判断を迅速化。コスト最大40%削減。

💡 2. IDEA BOXの実装

ラフな手書きメモからの発明提案書作成やブレインストーミング、クレームチャート作成まで一気通貫。

🤖 3. マルチAIモデル切り替え

推論精度（最新大型モデル）とスピード・コスト（軽量モデル）など、目的に応じて複数LLMを動的に切り替え可能。



【Task Tool 4】 Patentfield AIR：数千件のポートフォリオを俯瞰するマクロ分析

⚙️ コア技術: GPT-5.2 / Gemini-3-flash / マップ可視化 | 🏢 対象: 知財戦略部・経営層 | 📊 強み: 膨大な母集団の高速分類と可視化

1. 最新生成AIの早期実装

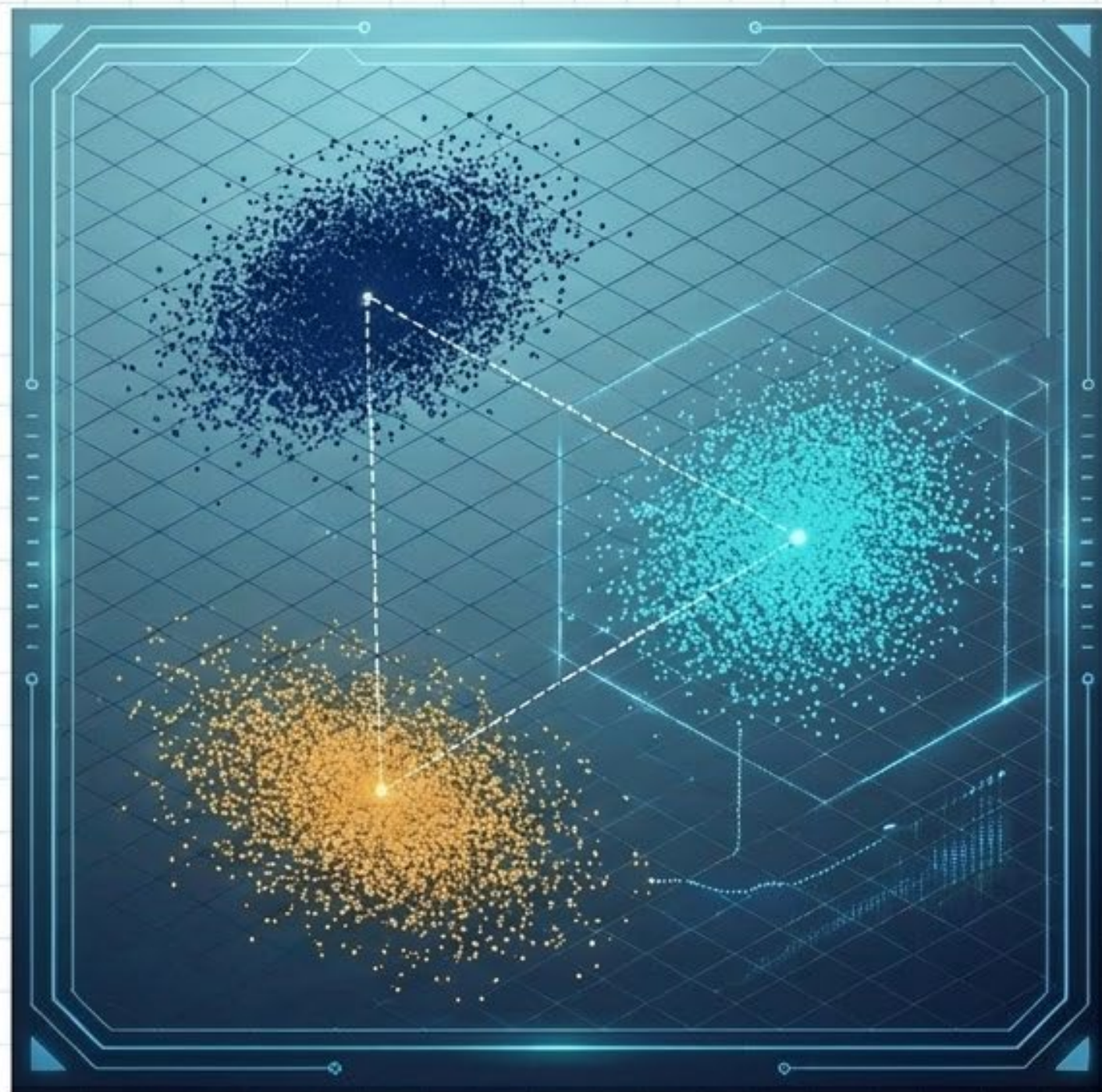
専門家レベルの推論力を持つgpt-5.2-2025-12-11や、高速処理のgemini-3-flash-previewをプラットフォームに統合。

2. 母集団への一括処理

単一文献ではなく、検索で得られた数千件の特許群全体を一括査読。企業独自の分類やラベルを自動付与。

3. 戦略的マップ連携

生成AIの分類結果を強力なマップ可視化機能と連携。競合の技術シフトや出願動向を直感的に把握し、M&Aや投資判断の材料を提供。



【統合分析】 機能・戦略的ポジショニング比較

ツール名称	カテゴリ	コア技術・手法	最大の強み	主なターゲット・導入部署
Patsnap Hiro	AIエージェント	PharmaGPT, RAG+RAT, TRIZ	エンドツーエンドの自律的 R&D知財戦略・推論	グローバルR&D・知財戦略部門
Tokkyo.Ai	AIエージェント	Deep Search, 自律的ドラフト生成	生の研究メモからの意味ベース発明抽出と出願準備	R&D現場・出願業務担当者
Genzo AI	従来型/業務自動化	SaaS型自動化プラットフォーム	自社実証済みの知財業務自動化と外部委託コストの劇的削減	大企業の知財部
Summaria	従来型/読解支援	OpenAI GPT連携, 一括処理	クリアランス調査のノイズスクリーニング・請求項対比	特許実務者・調査担当者
AI Samurai ONE	従来型/出願支援	IDEA BOX, 審査官ロジック	特許性のA-D客観的ランク付けと提案書自動生成	出願業務を頻繁に行う知財部・中小企業
Patentfield AIR	従来型/マクロ分析	GPT-5.2, Gemini-3-flash, マップ可視化	膨大な母集団の高速分類とポートフォリオのマクロ可視化	知財戦略部・経営層

ユースケース・マトリクス：実務タスクの性質に応じた最適配置

自律性・抽象度（高）



探索・戦略

実務・実行

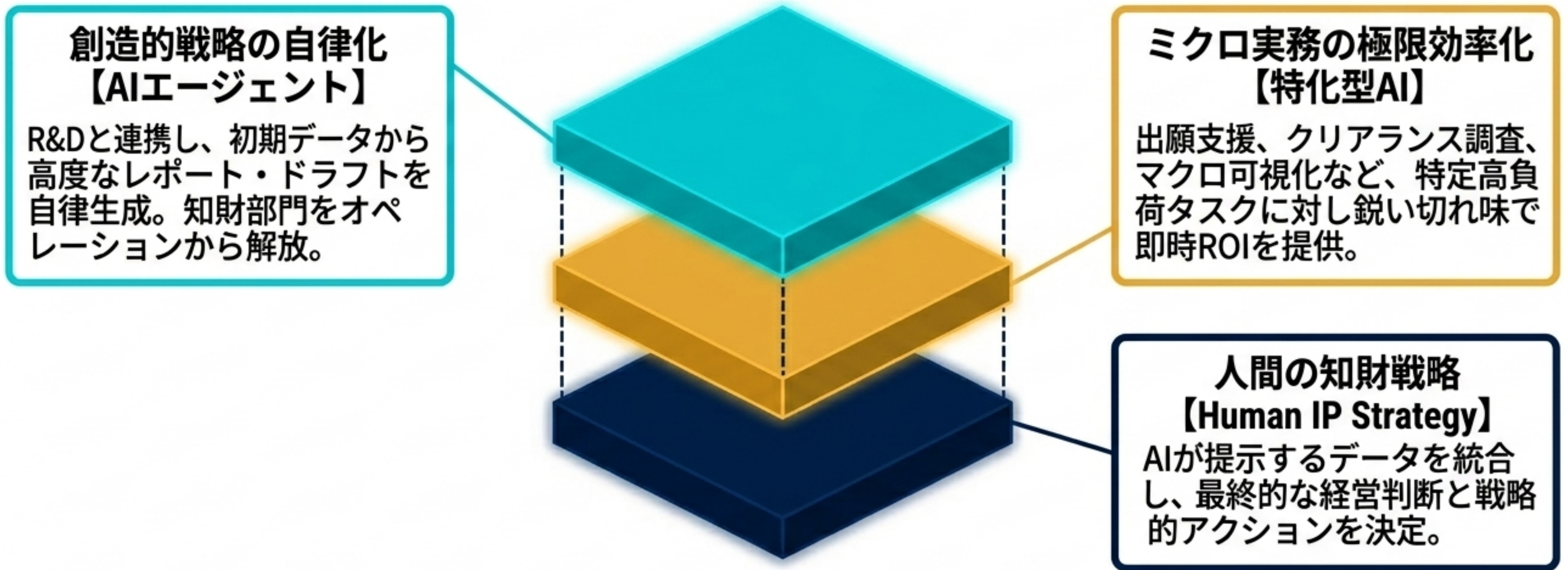


制御性・具体性（高）

組織課題とROIに基づくAI導入診断

Diagnostic Dashboard		
組織のボトルネック (Symptoms)	処方箋となるAI (Prescription)	期待されるROI (Outcomes)
R&Dと知財の連携不足、 暗黙知の埋没	自律型エージェント (Patsnap, Tokkyo.Ai)	アイデアから知財化までのリード タイム短縮、未知領域の探索
膨大な外部委託費用、 社内ノウハウの属人化	業務自動化SaaS (Genzo AI)	数千万円規模の明確な外部支出削 減、業務標準化
出願可否の判断遅れ、 提案書作成の負荷	出願・査定支援 (AI Samurai)	申請関連業務コスト最大40%減、 出願判断の客観化
FTO調査等のノイズ排除に よる現場の疲弊	読解・スクリーニング (Summaria)	調査担当者の工数劇的削減、 事業部の特許理解向上
経営層への戦略提案不足、 競合把握の遅れ	マクロ分析・可視化 (Patentfield AIR)	M&Aや開発投資判断の精緻な材料 提供

結論：次世代の知財テックスタック「ハイブリッドAI戦略」



単一ツールへの依存を脱却せよ。自社のボトルネックを精緻に特定し、自律性（エージェント）と制御性（特化型）を適材適所で統合することこそが、特許を「守りのツール」から「経営の武器」へ昇華させる唯一の道である。